



今回から東京事務所のメンバーも編集に加わることになり、東海事務所と東京事務所が連携しあい手探りでの43号の編集となった。表紙のデザインも少々面変わりして、新鮮味を感じられたことと思う。

さて、今年の大規模連休は天候に恵まれ行楽日和となったが、連休を利用して京都を

訪れた。旅の主目的は青蓮院の庭園のライトアップ鑑賞だったのだが、まず夜の京都の街の暗さに驚いた。山を背景にした寺院はライトアップのせいもあってか、より一層の闇の濃さを感じさせ、ぞくりと来るほど美しい。光が木々のねじくれた輪郭を浮かび上がらせる。夜なお明るい都会に慣れた目には、新鮮に映った。文明の発達した現代ですら、うすら寒いものを感じるのだから、千年の昔に魑魅魍魎が跋扈すると人々が闇を恐れたのも無理はない。

深夜営業など経済活動がさかんになるにつれ昼夜の境が曖昧になったように、便利なITツールが発展するにつれ仕事と私生活の境目も曖昧になってきたように思う。私たちはもっと“夜”を見つめなおす必要があるのかもしれない。(住)